

山本篤個展 「MY HOME IS NOT YOUR HOME」

2022年7月23日(土) – 9月3日(土)



山本篤, 木の家, 2019-2022, UHD

私の「家」は本当に私ものなのか？

反応体である自分の身体は私ものなのか？

国は誰のものなのか？

「家」は社会に含まれるのか？

「国民」は国に含まれるのか？

私の家は私の家なのかという疑問が生まれたときに、

私の家があなたの家である可能性がどれくらいあるのか？

2022年 山本篤

シュウゴアーツでは初めてとなる山本篤の個展を開催する。2003年、多摩美術大学絵画学科を卒業した山本篤は、ベルリンに渡りアーティストとしての道を模索していた最中に、ブルース・ナウマンの展示に出会い、アートを完成されたモノではなく、現在進行形の行為としてアプローチするナウマンの手法に衝撃を受けた。以降山本は「作品がどう見えるかではなく、何がなされているか。HOWよりWHAT。クオリティよりアティチュード」という考えのもと、絵画から映像の世界へ転向し、「自分が本当に見てみたい」という「欲望」を燃料に身の回りのあらゆる材料を用いて手を動かし続けた。その結果として15年間で200本を超える映像作品を残すに至る。



山本篤, The Dream House, 2018-2022, UHD



山本篤, 光る木, 2021-2022, UHD

2018年から一年間、山本は安定した日常サイクルからの逸脱を求め、家族を連れてベトナム・フエに滞在した。経済的にも世代的にも変革を迎え、伝統的なコミュニティや戦争の傷痕が消えつつある彼の地において、山本は制作に向けられた自分自身の欲望は主体的なものではなく、環境によって様々に引き起こされる「反応」であると気づく。そして帰国後にコロナ禍に突入し、世界的に日常が日常でなくなり、他者との繋がりが大きく変化する中、在宅という閉ざされた状況の中で発生する自身の反応をつぶさに見つめることとなった。そうして山本は「家」というキーワードを物質的な側面に限定せず、個と個、個と国家、個と地球など、複数の概念の境界線として捉え、様々な関係性のリフレームを試みる。本展では帰る場所としての家、ドリームハウス、人間以外の存在にとっての家など、ベトナムとコロナ禍の日本で制作された映像作品を発表する。

2022年5月 シュウゴアーツ



山本篤, 木の家, 2019-2022, UHD

山本篤

1980年東京都生まれ。多摩美術大学絵画学科卒業後、2003年に単身ベルリンへ渡り映像制作を始め、これまでに200本以上の作品を制作している。生真面目なままで日常生活の中で制作を実践し続ける姿勢は、勤め人として、父親として生活を営む現在でも変わらない。主な展覧会に「祈りのフォーム」Art Center Ongoing (2020)、「どう生きるか #2 六本木にて」シュウゴアーツ (2018)、「MAMスクリーン07」森美術館 (2017-18)、「国立奥多摩映画館」国立奥多摩美術館 (2016)など。

山本篤「MY HOME IS NOT YOUR HOME」

会期：2022年7月23日(土)–9月3日(土) *夏季休廊：8月14日(日)–8月22日(月)

会場：シュウゴアーツ

開廊時間：火～土曜 正午 – 午後6時 (日月祝休廊)

*オープニングレセプションは開催いたしません。新型コロナウィルス対策のため開廊時間を短縮しております。

協力：ベンキュージャパン、機材提供：宮路雅行

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：<http://shugoarts.com/topics/>

ShugoArts シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

展覧会企画担当：石井 minako@shugoarts.com プレスに関するお問い合わせ：石井・山田 gallery@shugoarts.com